

れている。1個流しとは複数の工程を円状に配置し、一人の作業者が掛け持ち作業を行うことにより完成品が一つできるという生産方式。武州工業ではこの1個流しの生産ラインの中に「作らず」、「流さず」、「受け取らず」からなる3Z保証を取り入れ、一人の作業者が生産者兼品質保証責任者という生産体制を構築し、不良品を作らない、万が一設備トラブル等で不良品を作ってしまった場合には1個で止めるという活動を製造現場にて続けている。これは生産現場における「ムダ」を徹底的に抑制することにより材料、エネルギー等の資源の浪費を止めるという点で環境負荷の軽減に貢献している。

このような武州工業の取組みは環境力大賞だけではなく多方面からも評価を受け、2012年に東京商工会議所より「勇氣ある経営大賞」を受賞した。継続的に武州工業ならではの経営を続けてきた結果が環境、企業経営の両方の側面より評価され各表彰を頂けたのだと思った。

現在、武州工業の従業員は130人で、平均年齢は33歳と若い。創業より生産する部品の大部分は自動車関連であったが、2009年より医療機器関連向けの売上が伸びてきている。今後も日本で仕事をする決意表明と医療機器部品の製造現場として最低限必要な清潔な製造環境を確保する為、2013年3月に次世代のモデル工場となるような太陽光パネルやガス発電、排熱利用、雨水利用システムなど環境に配慮した最新の設備を導入した工場が竣工し、稼働している。

また、最近ではグッドデザイン賞を受賞した製品の筐体部分のパイプの加工を担当するなど、新たな分野の開拓にも力を入れている。2014年1月に行われた中小企業の技術とデザイナーがコラボレーションし自社製品を製作することを目的とした東京ビジネスデザインアワードにて、パイプを使った知育玩具「Pipegram(パイプグラム)」が最優秀賞を受賞し、2014年度には製品化を視野に入れ開発も始まった。

これからも日本で環境に配慮したものづくりが出来るように更なる努力を重ねていく所存である。

福田 章一 氏

株式会社ウェルシィ 取締役



ウェルシィは水処理の事業を中心に行っている。水処理の中でも特に地下水の飲料化ビジネスが柱になっている。最近ではこれまでの経験を踏まえながら排水処理の分野なども手掛ける

ようになった。本社は千代田区にあり、全国をテリトリーとし、海外では上海に駐在所を設けている。また2つの研究所を持ち、中央研究所では水処理技術の研究を、厚生労働省登録の日本エコロジイ研究所では水質分析を行っている。設立は1985年11月で、今年で29期目を迎えている。

社員は140名、主要株主は三菱レイヨン、伊藤忠プラントック、3大メガバンクなどの有力企業である。営業品目は、地下水膜ろ過システムの他に工業用水の飲料化システム、排水処理システム、災害時非常用浄水装置、非常用発電機なども取り扱っている。

ウェルシィは、四半世紀近く私が代表を務めてきた。私自身、気が付いてみれば74歳になっていた。朝礼で私は社員にいつもリスク管理をしなければならないと言ってきたが、「会社のリスクで一番大きいのは社長自身では」、と思った社員もいただろう。今後について考えていた時、以前よりお世話になっていた三菱レイヨンから買収のお誘いがあり、昨年12月16日に社長を退いた。

社長を退いて感じたこととして、社長業は精神的にも肉体的にも重圧を感じながらやっていたということだった。というのも12月16日にバトンタッチをして、2か月半が経とうとしているが、この間、精神的にもものすごく楽に仕事を進められている。社長を辞めてこんなに元気になるのか、こんなに疲れないのかと心底思っている。代表の時から海外に行く機会が多く、帰ってくると疲れきってしまっていた時もあったが、退いてからは、